



Sun N1 System Manager 1.2 イン ストールおよび構成ガイド

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 819-4872-10
2005 年 11 月

Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

U.S. Government Rights Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、Java Coffee Cup のロゴマーク、docs.sun.com、N1、Sun Fire、JDK、Netra、および Sun Enterprise は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標、登録商標もしくは、サービスマークです。

サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。Netscape Navigator および Mozilla は、米国およびその他の国における Netscape Communications Corporation の商標および登録商標です。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。©Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. ©Copyright OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved.

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれる郵便番号辞書 (7 桁/5 桁) は日本郵政公社が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行っています)。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド』に添付のものを使用しています。

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK のグラフィカル・ユーザインタフェースを実装するか、またはその他の方法で米国 Sun Microsystems 社との書面によるライセンス契約を遵守する、米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われませんものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun N1 System Manager 1.2 Installation and Configuration Guide

Part No: 819-4142



051204@13215



目次

はじめに 7

- 1 **Sun N1 System Manager** ソフトウェアのインストールと設定 11
 - Sun N1 System Manager のインストールの前提条件 11
 - ▼ Sun N1 System Manager のインストール ISO イメージをダウンロードし、マウントする 12
 - Sun N1 System Manager 1.2 ソフトウェアのインストール 13
 - ▼ N1 System Manager ソフトウェアをインストールする 13
 - N1 System Manager システムの設定 16
 - ▼ N1 System Manager システムを設定する 16
 - 本稼働の準備 23
 - パフォーマンスのガイドライン 23
 - N1 System Manager のパフォーマンス調整 23
 - ▼ N1 System Manager のパフォーマンスを向上させる 24
- 2 **Sun N1 System Manager** ソフトウェアとプロビジョニング可能なサーバーの管理エージェントのアップグレード 27
 - Sun N1 System Manager 1.2 へのアップグレード 27
 - ▼ Sun N1 System Manager ソフトウェアをアップグレードする 27
 - ▼ ALOM 電子メール警告の設定を構成する 30
 - プロビジョニング可能なサーバー の OS 管理エージェントをアップグレードする 31
 - ▼ プロビジョニング可能なサーバー の OS 管理エージェントをアップグレードする 34

3	Sun N1 System Manager ソフトウェアのアンインストール	35
	Sun N1 System Manager ソフトウェアのアンインストール	35
	▼ N1 System Manager ソフトウェアをアンインストールする	35
4	障害追跡	37
	一般情報	37
	N1 System Manager を使ってシステム管理サーバーを管理できない	37
	工場出荷時状態のサーバーの検出	37
	DHCP サービスと N1 Grid Service Provisioning System の衝突	38
	エラーメッセージ	39
	問題	40
	管理サーバーの設定	41
	▼ /etc/hosts ファイルを更新する	41
	▼ /etc/resolv.conf ファイルを更新する	41
	▼ プロビジョニング可能なサーバーの自動設定を無効にする	42
	プロビジョニング可能なサーバーのファームウェア	42
	索引	45

表目次

表 4-1	SPARC アーキテクチャーのプロビジョニング可能なサーバーのデフォルトの資格 38
表 4-2	x86 アーキテクチャーのプロビジョニング可能なサーバーのデフォルトの資格 38

はじめに

『Sun N1 System Manager 1.2 インストールおよび構成ガイド』では、システムの管理サーバーへの Sun N1™ System Manager ソフトウェアのインストールおよび構成に関する要件を説明します。

対象読者

このマニュアルは、N1 System Manager のソフトウェアとハードウェアのインストールを行うシステム管理者を対象としています。システム管理者は、次の分野の知識と経験が必要です。

- Linux および Solaris™ オペレーティングシステム、および各オペレーティングシステムに付属するネットワーク管理ツール
- DNS、DHCP、IP アドレス設定、サブネットワーク、VLAN、SNMP、およびメールサービス

マニュアルの構成

- 第 1 章では、管理サーバーに、はじめて N1 System Manager ソフトウェアをインストールし、設定、調整を行う方法を説明しています。
- 第 2 章では、既存の N1 System Manager 1.1 インストールを、N1 System Manager 1.2 にアップグレードする方法と、プロビジョニング可能なサーバーの管理エージェントのバージョンを 1.1 から 1.2 にアップグレードする方法を説明します。
- 第 3 章では、N1 System Manager ソフトウェアをアンインストールする方法を説明します。

- 第4章では、問題およびエラーメッセージの一覧を示し、問題の解決手順について説明します。

関連マニュアル

このマニュアルは、6部ある実装関連のマニュアルセットの1部です。マニュアルは、次の順序でお読みください。

- 『Sun N1 System Manager 1.2 ご使用にあたって』
- 『Sun N1 System Manager 1.2 の概要』
- 『Sun N1 System Manager 1.2 サイト計画の手引き』
- 『Sun N1 System Manager 1.2 インストールと構成ガイド』
- 『Sun N1 System Manager 1.2 管理ガイド』
- 『Sun N1 System Manager 1.2 コマンド行リファレンスマニュアル』

マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun の Web サイトでは、以下の追加情報を提供しています。

- マニュアル (<http://ja.sun.com/documentation/>)
- サポート (<http://ja.sun.com/support/>)
- トレーニング (<http://ja.sun.com/training/>)

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 machine_name% you have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	machine_name% su Password:
<i>AaBbCc123</i>	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、rm <i>filename</i> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。
「 」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	sun% grep `^#define \ XV_VERSION_STRING`

コマンド例のシェルプロンプト

以下の表に、C シェル、Bourne シェル、および Korn シェルのデフォルトの UNIX[®] システムプロンプト、およびスーパーユーザーのプロンプトを紹介します。

表 P-2 シェルプロンプト

シェル	プロンプト
C シェル	machine_name%
C シェルのスーパーユーザー	machine_name#
Bourne シェルおよび Korn シェル	\$

表 P-2 シェルプロンプト (続き)

シェル	プロンプト
Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー	#

第 1 章

Sun N1 System Manager ソフトウェア のインストールと設定

この章では、管理サーバーで Sun N1 System Manager ソフトウェアを初めてインストールし、設定する手順を示します。この章では、次の内容について説明します。

- 11 ページの「Sun N1 System Manager のインストールの前提条件」
- 13 ページの「Sun N1 System Manager 1.2 ソフトウェアのインストール」
- 16 ページの「N1 System Manager システムの設定」
- 23 ページの「本稼働の準備」
- 23 ページの「パフォーマンスのガイドライン」
- 23 ページの「N1 System Manager のパフォーマンス調整」

Sun N1 System Manager のインストール の前提条件

Sun N1 System Manager ソフトウェアをインストールするには、次の前提条件を満たしている必要があります。

- 『Sun N1 System Manager 1.2 サイト計画の手引き』の第 2 章「Sun N1 System Manager システムとネットワークの準備」の説明に従って、ハードウェアが接続、構成されている。
- 『Sun N1 System Manager 1.2 サイト計画の手引き』の第 3 章「管理サーバーでの OS のインストールと設定」の説明に従って、管理サーバーのハードウェアの種類に適したバージョンの OS が N1 System Manager の管理サーバーにインストールされている。

Sun N1 System Manager のインストールには、次の 2 つの方法があります。

- 管理サーバーとして選択したサーバーに DVD ドライブがある場合は、[13 ページの「N1 System Manager ソフトウェアをインストールする」](#)に従って、インストール DVD-ROM から Sun N1 System Manager ソフトウェアをインストールできます。

- 管理サーバーとして選択したサーバーに DVD ドライブがない場合は、12 ページの「Sun N1 System Manager のインストール ISO イメージをダウンロードし、マウントする」の手順に従って、N1 System Manager のインストール ISO イメージをダウンロードして展開し、マウントする必要があります。

▼ Sun N1 System Manager のインストール ISO イメージをダウンロードし、マウントする

- 手順
1. **N1 System Manager** 管理サーバーに **root** でログインします。
 2. (省略可能) **Sun Download Manager** をダウンロードし、インストールします。
Web ブラウザを使用してサイズの大きなファイルをダウンロードすると、失敗することがあります。このため、N1 System Manager のインストール ISO イメージをダウンロードするときは、Sun Download Manager を使用してください。Sun Download Manager のダウンロードおよびインストールの方法については、<http://www.sun.com/download/sdm/index.xml> を参照してください。
 3. **N1 System Manager** のインストール **ISO** イメージを管理サーバーにダウンロードし、展開します。
ダウンロード元については、N1 System Manager eFulfillment のマニュアルと電子メールを参照してください。管理サーバーにインストールされているオペレーティングシステム用の ISO イメージをダウンロードします。

- `n1sm-1.2-ga-linux-x86-iso.zip`
- `n1sm-1.2-ga-solaris-x86-iso.zip`
- `n1sm-1.2-ga-solaris-sparc-iso.zip`

4. **N1 System Manager** のインストール **ISO** イメージの **zip** ファイルを展開します。
`unzip ISO-image-name.zip` と入力します。*ISO-image-name* は、ダウンロードする N1 System Manager のインストール ISO イメージの zip ファイルの名前です。

5. 管理サーバー上で、インストール **ISO** イメージのマウントポイントになるディレクトリを作成し、**ISO** イメージをマウントします。

N1 System Manager のインストール ISO イメージを `n1sm-install.iso` という名前で保存し、`/n1sminstall` という名前のディレクトリにマウントするとします。マウントポイントになるディレクトリを作成し、ISO イメージをマウントするには、次のように入力します。

- Solaris の場合

```
# mkdir /n1sminstall
# lofiadm -a /n1sm-install.iso
/dev/lofi/1
# mount -F hsfs -o ro /dev/lofi/1 /n1sminstall/
```

管理サーバーに別の lofi デバイスがインストールされている場合は、`lofiadm -a /nlsm-install.iso` コマンドでは、たとえば `/dev/lofi/2` のような別の lofi デバイスが表示されます。`mount -F` では、`lofiadmin -a` コマンドで表示された名前を使用してください。

■ Linux の場合

```
# mkdir /nlsminstall
# mount -o loop,ro /nlsm-install.iso /nlsminstall
```

次の手順 次の節で示す手順で Sun N1 System Manager ソフトウェアをインストールします。

Sun N1 System Manager 1.2 ソフトウェアのインストール

ここでは、管理サーバーに、初めて N1 System Manager 1.2 ソフトウェアをインストールする手順を説明します。

管理サーバーに、以前のバージョンの N1 System Manager ソフトウェアがインストールされている場合は、[第 2 章](#)の手順に従って、管理サーバーをアップグレードしてください。

N1 System Manager ソフトウェアのインストールプロセスはネットワーク構成によって異なり、最大で 2 時間かかる場合があります。



注意 – 管理サーバーは N1 System Manager ソフトウェア専用にします。管理サーバーにはほかのアプリケーションをインストールしないでください。

▼ N1 System Manager ソフトウェアをインストールする

手順 1. N1 System Manager 管理サーバーに **root** でログインします。

2. N1 System Manager のソースがあるディレクトリに移動します。

N1 System Manager の DVD からインストールする場合は、次のディレクトリに移動します。

■ Solaris SPARC の管理サーバーの場合

```
# cd /cdrom/n1_system_mgr/Solaris_sparc/Product/installer
```

■ Solaris x86 の管理サーバーの場合

```
# cd /cdrom/n1_system_mgr/Solaris_x86/Product/installer
```

■ Linux x86 の管理サーバーの場合

```
# cd /cdrom/n1_system_mgr/Linux_x86/Product/installer
```

N1 System Manager のインストール ISO イメージからインストールする場合は、パス名の /cdrom を、マウントポイントのディレクトリ名に置き換えます。

3. **./install** と入力してインストールプロセスを起動します。

ソフトウェア評価規約が表示されます。

4. 規約に同意してインストールを継続するかどうかを選択します。

規約をよく読みます。インストールを継続するには「**y**」を、インストールを中止するには「**n**」を入力します。

インストールを継続すると、インストールスクリプトによって必要な Perl モジュールが確認されます。このプロセスが完了すると、N1SM インストーラプロセスによって、管理サーバーに以前のバージョンである N1 System Manager 1.1 がインストールされているかどうかを確認されます。

注 - バージョン 1.1 がインストールされている場合は、次のようなメッセージが表示され、インストールプロセスは終了します。

```
Version 1.1 is already installed
Invoke installer with -u option to upgrade
```

このようなメッセージが表示された場合は、[第 2 章](#)の説明に従って、管理サーバーをアップグレードしてください。

次に示すように、N1SM インストーラのメニューと、N1SM インストーラによってインストールされるコンポーネントの表示内容は、管理サーバーにインストールされているオペレーティングシステムによって異なります。

■ Solaris 10 の管理サーバー

N1SM Installer (version 1.2 on SunOS)

1. Install OS packages.	[Not Completed]
2. Install Expect.	[Not Completed]
3. Install IPMI tool.	[Not Completed]
4. Install JDK 1.5.	[Not Completed]
5. Install service provisioning components.	[Not Completed]
6. Install OS provisioning components.	[Not Completed]
7. Copy DHCP configuration file.	[Not Completed]
8. Install user interface components.	[Not Completed]
9. Install service container components.	[Not Completed]
10. Install N1 System Manager.	[Not Completed]

Non-interactive install in progress

Executing current step: Install OS packages...

■ Linux の管理サーバー

N1SM Installer (version 1.2 on Linux)

1. Check that required RPM packages are present.	[Not Completed]
2. Install IPMI tool.	[Not Completed]
3. Install JDK 1.5.	[Not Completed]
4. Install Python.	[Not Completed]
5. Install service provisioning components.	[Not Completed]
6. Install OS provisioning components.	[Not Completed]
7. Copy DHCP configuration file.	[Not Completed]
8. Install user interface components.	[Not Completed]
9. Install service container components.	[Not Completed]
10. Install N1 System Manager.	[Not Completed]

Non-interactive install in progress.

注 – 管理サーバーに Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 3.0 AS Update 2、Update 3、または Update 4 をインストールし、RHEL 3.0 AS Update 2、Update 3、または Update 4 以外の RPM をインストールしている場合は、インストールの手順 1 が完了したあとに、N1 System Manager で RPM が機能しない可能性があるという警告が表示される場合があります。該当する RPM の一覧に続いて、検出された RPM の一覧が表示されます。このメッセージは単なる警告なので、c キーを押すとインストールを続行できます。このオプションは、インストールが失敗した場合に現在使用可能なオプション (再試行する場合は t、終了する場合は x) に追加されたものです。

RedHat Enterprise Linux AS Update 3 以降をインストールしている場合は、サービスコンテナのコンポーネントのインストールが完了したあとに、次のメッセージが表示される場合があります。

This installer has determined that some rpms currently installed on this system have later versions than those currently required by N1SM. If you encounter any problems related to these substitutions, you might need to obtain and install the exact version of the software required by the installer before re-installing N1SM.

インストールプロセスによって各処理が順番に実行されます。各処理が完了すると、処理の状態が「Completed」に更新されます。

処理に失敗したら、通知が表示され、状態が「Not Completed」のままか、「Partially Run」に変更されます。インストールプロセスを終了し、ログファイル /var/tmp/installer.log.latest で問題の原因を調べてください。問題が解決したら、インストールプロセスを再び実行します。

インストールプロセスが完了すると、設定ユーティリティーの実行を求めるメッセージが表示されます。

```
N1SM installation is complete
Run the n1smconfig utility to configure N1SM.
```

次の手順 次の節、Configuring the N1 System Manager Systemに従って N1 System Manager システムを設定します。16 ページの「N1 System Manager システムの設定」

N1 System Manager システムの設定

この節では、N1 System Manager システムを設定する手順を示します。

初期設定は `n1smconfig` コマンドを実行して行います。N1 System Manager を設定し直す必要が生じた場合は、`n1smconfig` コマンドを再実行します。



注意 - `n1smconfig` を実行し、変更を受け入れると N1 System Manager は停止します。停止したあとに再起動してください。

▼ N1 System Manager システムを設定する

始める前に 13 ページの「Sun N1 System Manager 1.2 ソフトウェアのインストール」の説明に従って、N1 System Manager が正しくインストールされている必要があります。

- 手順
1. **N1 System Manager** 管理サーバーに **root** でログインします。
 2. **n1smconfig** と入力して設定プロセスを起動します。
継続するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。「**y**」を入力して操作を続けます。

プロビジョニングネットワークの説明に続いて、現在のシステム設定が表示されます。次に、設定プロセスによって検出されたネットワークインタフェースが表示されます。プロビジョニングネットワークのインタフェースの指定を求めるメッセージが表示されます。
 3. プロビジョニングネットワークで使用するインタフェースを指定します。
マシンのアーキテクチャーおよびインストールされている OS に応じて、プロビジョニングインタフェースで使用する管理サーバー名を入力します (`eth1`、`hme0`、`bge1` など)。

DHCP サーバーに使用する IP アドレスの範囲を指定するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。

4. DHCP サーバーのアドレス範囲を設定するかどうかを選択します。

DHCP IP アドレス範囲を設定すると、指定した IP アドレスの範囲がプロビジョニング可能なサーバーに割り当てられ、プロビジョニングネットワークを介したオペレーティングシステムおよびアップデートのロードに使用されます。

DHCP サーバーの IP アドレス範囲を設定しなかった場合は、OS プロファイル用に N1 System Manager の load 操作を使用するときに静的アドレスを指定する必要があります。

注 - 管理サーバーには、データネットワーク用の DHCP サービスが提供されていません。データネットワークの IP サービスを動的に設定する場合は、データネットワーク用の外部 DHCP サーバーを用意する必要があります。同じプロビジョニングネットワークに別の DHCP サーバーを設置することはできません。

- DHCP サーバーに使う IP アドレスの範囲を指定する場合は、「y」を入力します。



注意 - 管理ポートアドレスがプロビジョニングサブネットと同じサブネット上にある場合は、管理サーバーの IP アドレスが指定範囲内のアドレスと重複しないように注意します。この規則によって、DHCP サーバーは、DHCP クライアントの条件を使用して解決しないクライアントに対し、重複する IP アドレスを割り当てないようにします。

DHCP の開始 IP アドレスの入力を求めるメッセージが表示されます。DHCP サーバーが使う開始 IP アドレスを入力します。

DHCP の終了 IP アドレスの入力を求めるメッセージが表示されます。DHCP サーバーが使う終了 IP アドレスを入力します。

- IP アドレスの範囲を指定しない場合は、「n」を入力します。

検出されたネットワークインタフェースに続いて、管理ネットワークの説明が表示されます。管理ネットワークのインタフェースの指定を求めるメッセージが表示されます。

5. 管理ネットワークで使用するインタフェースを指定します。

マシンのアーキテクチャーおよびインストールされている OS に応じて、管理インタフェースで使用するインタフェース名を入力します (eth1、hme0、bge1 など)。

DNS ネームサーバーと検索リストのエントリの設定を求めるメッセージが表示されます。

6. ネームサーバーを設定するかどうかを選択します。

- ネームサーバーとドメイン検索リストを設定する場合は、「**y**」を入力します。ネームサーバーのアドレスの入力を求めるメッセージが表示されます。[手順 7](#)に進んでください。
- 表示されるネームサーバーとドメイン検索リストを使う場合は、「**n**」を入力します。SMTP サーバーでイベント通知を設定するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。[手順 9](#)に進んでください。

7. ネームサーバーを設定します。

ネームサーバーの IP アドレスを半角スペースで区切って入力します。次に例を示します。

129.111.111.11 129.111.111.22

検索ドメインのサフィックスリストの入力を求めるメッセージが表示されます。

8. 検索ドメインを指定します。

DNS の検索に使うドメインの名前を半角スペースで区切って入力します。次に例を示します。

location-one.company.com location-two.company.com location-three.company.com

SMTP サーバーでイベント通知を設定するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。

9. SMTP でイベント通知を設定するかどうかを選択します。

- SMTP サーバーを設定する場合は、「**y**」を入力します。SMTP サーバーの名前または IP アドレスの入力を求めるメッセージが表示されます。[手順 10](#)に進んでください。
- SMTP サーバーを設定しない場合は、「**n**」を入力します。ログの設定を変更するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。[手順 11](#)に進んでください。

10. SMTP サーバーの名前または IP アドレスを指定します。

SMTP サーバーの完全修飾名または IP アドレスを入力します。次に例を示します。

smtp.mycompany.com

または

129.111.222.33

イベントログの設定を変更するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。

11. イベントログの設定を変更します。

- ログを設定する場合は「**y**」を入力します。ログの設定に関する情報が表示されます。[手順 12](#)に進んでください。

- ログを設定しない場合は「**n**」を入力します。サーバー起動時に、N1 System Manager を起動するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。[手順 15](#) に進んでください。

12. ログを設定します。

Return キーを押してデフォルトの「ALL」を使用するか、指定内容を入力します。イベントログの重要度の値の入力を求めるメッセージが表示されます。

13. イベントログの重要度を指定します。

次のいずれかの操作を行います。

- Return キーを押してデフォルト値の 0 を使用します。
- 次に示すイベントの重要度を参照し、イベントログの重要度に対応する数字を入力します。
 - 0 = 不明
 - 1 = その他
 - 2 = 情報
 - 3 = 警告
 - 4 = マイナー
 - 5 = メジャー
 - 6 = 重大
 - 7 = 致命的
- 重要度の指定を中止するには「**q**」を入力します。ログの設定は行われません。

OS の配備、およびジョブのタイムアウトの設定に関する情報が表示されます。ジョブのタイムアウトの設定を変更するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。

14. ジョブのタイムアウトの設定を変更するかどうかを選択します。

一部の OS ディストリビューションは非常に大きく、サーバーのプロビジョニングを行うときにデフォルトで設定されている時間よりも長い時間を要する場合があります。大きな OS ディストリビューションのプロビジョニングを行う場合は、タイムアウト値を延長します。

- ジョブのタイムアウトの設定を変更する場合は、「**y**」を入力します。
ジョブおよびステップタイムアウト値の説明が表示されます。別のタイムアウト値を入力します。
- タイムアウトの設定を変更しない場合は、「**n**」を入力します。

サーバー起動時に N1 System Manager (N1SM) を起動するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。

15. サーバー起動時に N1 System Manager システムを起動するかどうかを選択します。

- サーバー起動時に N1 System Manager システムを起動するには、「**y**」を入力します。

- 管理サーバーの再起動後に N1 System Manager システムを手動で起動する場合は、「**n**」を入力します。N1 System Manager を手動で起動できることを通知するメッセージが表示されます。

設定が正常に完了したあとで N1 System Manager を起動するには、コマンド「/etc/init.d/n1sminit start」を入力します。

自動ログイン機能があるプロビジョニング可能なサーバーの場合、ILOM Web GUI への自動ログインを有効にするかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。

16. プロビジョニング可能なサーバーの **ILOM GUI** 自動ログイン機能を有効にするかどうかを選択します。

Sun Fire™ X4100 サーバーと Sun Fire X4200 サーバーには、遠隔デバイスへの接続やシステム監視の実行などのさまざまなシステム管理作業を行うための Web GUI が用意されています。ILOM GUI 自動ログインを有効にした場合は、ブラウザインタフェースで「Web Console を開く」のリンクをクリックしたときに Sun Fire X4100 または X4200 に自動ログインします。自動ログイン機能を有効にしない場合は、「Web Console を開く」のリンクをクリックしたときにパスワードの入力が求められます。詳細は、『Sun N1 System Manager 1.2 Online Help』の「To Open the Sun ILOM Web GUI for a Sun Fire X4000 Series Server」を参照してください。



注意 – Sun Fire X4100 サーバーと X4200 サーバーの Web Console (Sun ILOM Web GUI) 自動ログイン機能を有効にすると、ログインページの Web ページソースを表示できるユーザーは、サーバーのサービスプロセッサの資格を見ることができてしまいます。

- 自動ログイン機能を有効にする場合は、「**y**」を入力します。
- 自動ログイン機能を有効にしない場合は、「**n**」を入力します。

Solaris の管理サーバーを設定している場合は、プロビジョニング可能なサーバーのシリアルコンソールにアクセスできるように SSHv1 プロトコルを有効にするかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。[手順 17](#)に進んでください。

Linux 管理サーバーを設定している場合は、ALOM 電子メール警告の設定を変更するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。[手順 18](#)に進んでください。

17. **Solaris** の管理サーバーで **SSHv1** プロトコルを有効にするかどうかを選択します。

SSHv1 は、Solaris の N1 System Manager ブラウザインタフェースからプロビジョニング可能なサーバーのシリアルコンソールへの遠隔アクセスを行うときに必要です。詳細は、『Sun N1 System Manager 1.2 Online Help』の「To Open the Serial Console for a Server」を参照してください。



注意 – SSHv1 については、セキュリティに関連する次の問題を考慮する必要があります。

- ブラウザインタフェースからシリアルコンソールへのアクセスで使用するアプレットには、証明書に基づく認証機能がありません。このアプレットでは、管理サーバーへの通信でのみ SSHv1 が使用され、また SSHv1 を使用するには、管理サーバーで SSHv1 が有効になっている必要があります。この問題が心配な場合は、コマンド行から connect コマンドを実行することでシリアルコンソール機能を使用できます。
- 管理サーバーからプロビジョニング可能なサーバーのプロビジョニングネットワークインタフェースへの接続中に使用される SSH フィンガープリントは、N1 System Manager ソフトウェアによって自動的に確認されます。このため、プロビジョニング可能なサーバーは中間者攻撃を受けやすくなります。

- SSHv1 を有効にする場合は、「**y**」を入力します。
- SSHv1 を有効にしない場合は、「**n**」を入力します。

現在の ALOM 電子メール警告の設定が表示されます。ALOM 電子メール警告の設定を変更するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。

18. ALOM 電子メールの設定を指定するかどうかを選択します。

一部のサーバーは、N1 System Manager にハードウェア監視の警告の送信に電子メールを使用します。ブラウザインタフェースの「イベントログ」タブで警告を受け取って表示する場合は、ALOM 電子メール警告の設定を指定する必要があります。

- 表示されている警告の設定を変更しない場合は、「**n**」を入力します。
Linux の管理サーバーを設定している場合は、推奨されるシステム設定が設定プロセスによって表示されます。設定を適用するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。[手順 20](#) に進んでください。
- 表示されている ALOM 電子メール警告の設定を変更する場合は、「**y**」を入力します。

ALOM 電子メール警告のユーザー名の入力を求めるメッセージが表示されます。

19. ALOM 電子メール警告の設定を指定します。

a. 電子メール警告のユーザー名を指定します。

『Sun N1 System Manager 1.2 サイト計画の手引き』の「メールサービスのためのシステムファイルとアカウントを設定する」の手順で決定したアカウント名を入力します。

次に例を示します。n1smadmin

電子メールの警告フォルダの指定を求めるメッセージが表示されます。

- b. 電子メール警告を保存する電子メールのフォルダを指定します。
Enter キーまたは Return キーを押して、受信箱のデフォルトの値を受け入れるか、別の電子メールフォルダ名を入力します。

電子メールプロトコルの指定を求めるメッセージが表示されます。

- c. 電子メール警告プロトコルを指定します。
管理サーバーが使用する電子メールプロトコルの名前を入力します。有効な値は、pop3 または imap です。

電子メール警告ユーザーアカウントのパスワードの入力を求めるメッセージが表示されます。

- d. アカウントのパスワードを指定します。
『Sun N1 System Manager 1.2 サイト計画の手引き』の「メールサービスのためのシステムファイルとアカウントを設定する」の手順で決定したパスワードを入力します。

電子メール警告ユーザーアカウントの電子メールアドレスの入力を求めるメッセージが表示されます。

- e. ユーザーアカウントの電子メールアドレスを入力します。

次に例を示します。 nlsadmin@company.com

電子メールサーバーの IP アドレスの入力を求めるメッセージが表示されます。

- f. 電子メールサーバーの IP アドレスを指定します

- 管理サーバーに電子メールサーバーがインストールされていて使用可能な場合は、管理サーバーの管理ネットワークインタフェースの IP アドレスを入力します。
- 管理サーバーの管理ネットワークインタフェースからアクセス可能な別のマシンに、電子メールサーバーがインストールされていて使用可能な場合は、そのマシンの IP アドレスを入力します。

指定した電子メール設定が表示され、この設定でよいかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。

- g. 設定を受け入れるかどうかを選択します。

- 設定が正しくない場合は、「n」を入力します。ALOM 電子メール警告の設定プロセスが再び始まり、電子メール警告のユーザー名の指定を求めるメッセージが表示されます。
- 設定を受け入れる場合は、「y」を入力します。

設定プロセスによって、すべてのシステム設定の変更内容が表示されます。設定を適用するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。

20. 設定を確認します。

- 設定を適用するには、「y」を入力します。

Enter キーを押して N1 System Manager を起動します。

- 設定が正しくない場合は、「n」を入力します。

N1 System Manager が正常に機能するには、設定をやり直し、適用する必要があります。設定プロセスが終了し、システムプロンプトが表示されます。N1 System Manager を設定するには、n1smconfig コマンドを再び実行します。

次の手順 23 ページの「本稼働の準備」の説明に従って、N1 System Manager システムの本稼働のための準備を行います。

本稼働の準備

この節では、N1 System Manager を調整する際のガイドラインと手順を示します。

N1 System Manager のパフォーマンスを最適化するため、プロビジョニング可能なサーバーの検出を行う前に、管理対象となるサーバーの数に基づいて N1 System Manager を調整する必要があります。

パフォーマンスのガイドライン

N1 System Manager 環境のパフォーマンスを最適化するには、次のガイドラインおよび推奨事項に従ってください。

- 検出を実行する前に、24 ページの「N1 System Manager のパフォーマンスを向上させる」の説明に従って、N1 System Manager の調整を行います。
- グループあたりのサーバー数を最大にし、多数の個別のサーバーではなく、グループに対して操作を実行します。グループに対して操作を実行すると、管理する必要のあるグループの数と、特定の作業を行うために実行する必要のあるジョブの数を最小限に抑えることができます。

N1 System Manager のパフォーマンス調整

N1 System Manager のパフォーマンスを最適化するため、管理対象となるプロビジョニング可能なサーバーの数に基づいて N1 System Manager を調整します。次の手順は、プロビジョニング可能なサーバーの検出を行う前に行う必要があります。

▼ N1 System Manager のパフォーマンスを向上させる

手順 1. 管理サーバーに **root** でログインします。

2. **Linux** のみ: **NFS** ファイルを更新します。

a. **/etc/sysconfig/nfs** ファイルを開いて次の行を追加します。

```
RPCNFSDCOUNT=32
```

b. ファイルを保存し、閉じます。

c. 「**/etc/init.d/nfs restart**」と入力して **NFS** を再起動します。

3. **package.cache.xml** ファイルを更新します。

/opt/sun/nlgc/lib/package.cache.xml ファイルを開き、**attribute name="FirmwareInfos"** を含む行を探します。この行を次のように変更します。

```
<attribute name="FirmwareInfos" refresh-interval="-1" delay="none" persistent="true"> />
```

このように指示すると、N1 System Manager の再起動後、はじめて実行する **show server** コマンドが完了するまでの時間が短縮されます。

4. **N1 System Manager** のプロセスをすべて終了します。

「**/etc/init.d/nlsminit stop**」と入力して **N1 System Manager** を終了します。

N1 System Manager のすべてのプロセスが終了するのを待ちます。

5. **N1 System Manager** のすべてのプロセスを起動します。

「**/etc/init.d/nlsminit start**」と入力して **N1 System Manager** を起動します。

- 次の手順
- **N1 System Manager** にログインします。『Sun N1 System Manager 1.2 管理ガイド』の「**N1 System Manager** の使い方の手引き」を参照してください。
 - **N1 System Manager** ユーザーを定義します。『Sun N1 System Manager 1.2 管理ガイド』の「**ユーザーの管理**」を参照してください。
 - **N1 System Manager** のルールを定義します。『Sun N1 System Manager 1.2 管理ガイド』の「**ロールの管理**」を参照してください。
 - 検出を実行して、プロビジョニング可能なサーバーを検索し、特定します。『Sun N1 System Manager 1.2 管理ガイド』の「**サーバーの検出**」を参照してください。
 - プロビジョニング可能なサーバーのオペレーティングシステムディストリビューションを作成します。『Sun N1 System Manager 1.2 管理ガイド』の「**OS ディストリビューションの管理**」を参照してください。

- プロビジョニング可能なサーバーのオペレーティングシステムプロファイルを作成します。『Sun N1 System Manager 1.2 管理ガイド』の「OS プロファイルの管理」を参照してください。
- オペレーションシステムディストリビューションを、プロビジョニング可能なサーバーにインストールします。『Sun N1 System Manager 1.2 管理ガイド』の「OS プロファイルの配備による OS ディストリビューションのインストール」を参照してください。

問題の解決手順については、このマニュアルの第 4 章および『Sun N1 System Manager 1.2 管理ガイド』の第 6 章「障害追跡」を参照してください。

第 2 章

Sun N1 System Manager ソフトウェア とプロビジョニング可能なサーバーの 管理エージェントのアップグレード

この章では、N1 System Manager 1.1 の管理サーバーを、N1 System Manager 1.2 にアップグレードする手順、およびプロビジョニング可能なサーバーの OS 管理エージェントをバージョン 1.2 にアップグレードする手順を説明します。

次の内容について説明します。

- 27 ページの「[Sun N1 System Manager 1.2 へのアップグレード](#)」
- 31 ページの「[プロビジョニング可能なサーバーの OS 管理エージェントをアップグレードする](#)」

Sun N1 System Manager 1.2 へのアップ グレード

ここでは、管理サーバーを N1 System Manager 1.1 から N1 System Manager 1.2 にアップグレードして、ALOM 電子メール警告を設定する手順を説明します。

次の内容について説明します。

- 27 ページの「[Sun N1 System Manager ソフトウェアをアップグレードする](#)」
- 30 ページの「[ALOM 電子メール警告の設定を構成する](#)」

▼ Sun N1 System Manager ソフトウェアをアップ グレードする

始める前に N1 System Manager 1.1 インストールのバックアップを行います。『Sun N1 System Manager 1.2 管理ガイド』の「N1 System Manager のデータベースおよび構成ファイルのバックアップと復元」を参照してください。

- 手順 1. **N1 System Manager** 管理サーバーに **root** でログインします。
2. **N1 System Manager** のプロセスをすべて終了します。
端末ウィンドウで「**/etc/init.d/n1sminit stop**」と入力します。「**N1 services stopped**」というメッセージを確認してから続行します。
3. **N1 System Manager** のソースがあるディレクトリに移動します。
N1 System Manager の DVD からインストールする場合は、次のディレクトリに移動します。
- Solaris SPARC の管理サーバーの場合

```
# cd /cdrom/n1_system_mgr/Solaris_sparc/Product/installer
```
 - Solaris x86 の管理サーバーの場合

```
# cd /cdrom/n1_system_mgr/Solaris_x86/Product/installer
```
 - Linux x86 の管理サーバーの場合

```
# cd /cdrom/n1_system_mgr/Linux_x86/Product/installer
```
- N1 System Manager のインストール ISO イメージからインストールする場合は、パス名の /cdrom を、マウントポイントのディレクトリ名に置き換えます。
4. **./install -u** と入力してアップグレードインストールプロセスを起動します。
ソフトウェア評価規約が表示されます。
5. 規約に同意してインストールを継続するかどうかを選択します。
規約をよく読みます。インストールを継続するには「**y**」を、インストールを中止するには「**n**」を入力します。

アップグレードを継続すると、アップグレードスクリプトによって必要な Perl モジュールが確認されます。このプロセスが完了すると、アップグレードプロセスによって、管理サーバー上のコンポーネントのバージョンが、N1 System Manager 1.1 のインストールメディアのアプリケーションのバージョンと照合されます。そのあと、N1SM インストーラのアップグレードメニューが表示され、最新のコンポーネントとアップグレードできるコンポーネントが一覧表示されます。

次に示すように、N1SM アップグレードのメニューと、アップグレードされるコンポーネントの一覧の表示内容は、管理サーバーにインストールされているオペレーティングシステムによって異なります。

– Solaris 10 の管理サーバー

N1SM Upgrade (version 1.1 to 1.2 on SunOS)

- | | |
|---|---------------------|
| 1. Install IPMI tool. | [Upgrade Available] |
| 2. Install JDK 1.5. | [Up To Date] |
| 3. Install service provisioning components. | [Up To Date] |
| 4. Install OS provisioning components. | [Upgrade Available] |
| 5. Install user interface components. | [Upgrade Available] |
| 6. Install service container components. | [Upgrade Available] |
| 7. Install N1 System Manager. | [Upgrade Available] |

Non-interactive install in progress

Executing current step: Install OS packages...

– Linux の管理サーバー

N1SM Upgrade (version 1.1 to 1.2 on Linux)

1. Install IPMI tool.	[Upgrade Available]
2. Install JDK 1.5.	[Up To Date]
3. Install Python.	[Up To Date]
4. Install service provisioning components.	[Up To Date]
5. Install OS provisioning components.	[Upgrade Available]
6. Install user interface components.	[Upgrade Available]
7. Install service container components.	[Upgrade Available]
8. Install N1 System Manager.	[Upgrade Available]

Non-interactive upgrade in progress.

Executing current step: Install IPMI tool...

インストールプロセスによって各処理が順番に実行されます。処理が完了すると、処理の状態が、[Up to Date] に変わります。

手順に失敗するとそのことが通知され、処理の状態は [Upgrade Available] のままか、[Partially Run] に変わります。インストールプロセスを終了し、ログファイル /var/tmp/installer.log.latest で問題の原因を調べてください。問題が解決したら、アップグレードプロセスを再び実行します。

アップグレードプロセスが完了すると、すべての実行中の N1 System Manager プロセスが停止し、再起動します。そのあと、N1SM のアップグレードプロセスが完了したことを通知するメッセージが表示されます。続いて、次のようなメッセージが表示されます。

Please use "n1smconfig -A" to configure email alerts for ALOM and to configure your management interface.

Please use "/opt/sun/n1gc/bin/agentupgrade" to upgrade the agents on provisionable servers with OS deployments.
bash-3.00#

インストールプロセスが終了します。

次の手順 [ALOM 電子メール警告の設定をします。次の30 ページの「ALOM 電子メール警告の設定を構成する」に進みます。](#)

▼ ALOM 電子メール警告の設定を構成する

- 手順
1. **N1 System Manager** 管理サーバーに **root** でログインします。
 2. **n1smconfig -A** と入力して、**ALOM** 電子メール警告の設定を構成します。
電子メール警告を送信するには、適切な設定が必要であることを示す通知が表示され、既存の値が表示されます。電子メール警告の設定を変更するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。
 3. 電子メール警告の設定を変更するかどうかを選択します。
 - 表示されている設定を受け入れる場合は「**n**」を入力します。電子メール警告の構成プロセスが終了し、システムプロンプトに戻ります。
 - 電子メール警告の設定を変更する場合は、「**y**」を入力します。
電子メール警告のユーザー名の入力を求めるメッセージが表示されます。
 4. 電子メール警告のユーザー名を指定します。
『Sun N1 System Manager 1.2 サイト計画の手引き』の「メールサービスのためのシステムファイルとアカウントを設定する」の手順で決定したアカウント名を入力します。

次に例を示します。n1smadmin

電子メールの警告フォルダの指定を求めるメッセージが表示されます。
 5. 電子メール警告を保存する電子メールのフォルダを指定します。
たとえば、inbox のように、警告アカウント用の電子メールフォルダの名前を入力します。

電子メールプロトコルの指定を求めるメッセージが表示されます。
 6. 電子メール警告プロトコルを指定します。
管理サーバー が使用する電子メールプロトコルの名前を入力します。有効な値は、pop3 または imap です。

電子メール警告ユーザーアカウントのパスワードの入力を求めるメッセージが表示されます。
 7. 電子メール警告のユーザーアカウントのパスワードを入力します。
『Sun N1 System Manager 1.2 サイト計画の手引き』の「メールサービスのためのシステムファイルとアカウントを設定する」の手順で決定したパスワードを入力します。

電子メール警告ユーザーアカウントの電子メールアドレスの入力を求めるメッセージが表示されます。
 8. ユーザーアカウントの電子メールアドレスを入力します。
次に例を示します。 n1smadmin@company.com

電子メールサーバーの IP アドレスの入力を求めるメッセージが表示されます。

9. 電子メールサーバーの IP アドレスを指定します

- 管理サーバーに電子メールサーバーがインストールされていて使用可能な場合は、管理サーバーの管理ネットワークインタフェースの IP アドレスを入力します。
- 管理サーバーの管理ネットワークインタフェースからアクセス可能な別のマシンに、電子メールサーバーがインストールされていて使用可能な場合は、そのマシンの IP アドレスを入力します。

指定した値が表示され、この値を使用するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。

10. 表示されている電子メール警告の設定を受け入れるかどうかを選択します。

- 設定が正しくない場合は、「n」を入力します。ALOM 電子メール警告の設定プロセスが再び始まり、電子メール警告のユーザー名の指定を求めるメッセージが表示されます。
- 表示されている電子メール警告の設定を使用する場合は、「y」を入力します。

設定内容が再び表示され、設定を適用するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。

「y」を入力して設定を適用するか、「n」を入力して適用しないで終了し、コマンドプロンプトに戻ります。

次の手順 プロビジョニング可能なサーバーの OS 管理エージェントを 1.2 に更新します。次の、31 ページの「[プロビジョニング可能なサーバーの OS 管理エージェントをアップグレードする](#)」に進みます。

注意事項 問題の解決手順については、このマニュアルの第 4 章および『Sun N1 System Manager 1.2 管理ガイド』の第 6 章「障害追跡」を参照してください。

プロビジョニング可能なサーバーの OS 管理エージェントをアップグレードする

ここでは、プロビジョニング可能なサーバーのバージョン 1.1 OS 管理エージェントを、バージョン 1.2 にアップグレードする手順を説明します。

agentupgrade コマンドを使用して、すべてのプロビジョニング可能なサーバー、サーバーグループ、特定のオペレーティングシステムが動作しているプロビジョニング可能なサーバー、サーバーモデルに基づく特定のプロビジョニング可能なサーバーのグループ、または特定のサーバーの OS 管理エージェントをアップグレードすることができます。

注 – N1 System Manager 1.1 は、Sun Fire T1000、T2000 などの sun4v サーバーをサポートしていません。したがって、N1 System Manager 1.1 を使用して作成された Solaris の s10s-hw2-04 または s10s-hw2-05 ディストリビューションには、Sun Fire T1000、T2000、およびその他の sun4v サーバーのサポートに必要なファイルが含まれていません。

N1 System Manager 1.2 で、Sun Fire T1000、T2000、およびその他の sun4v サーバーをサポートするには、agentupgrade を実行したあとにディストリビューションを再作成し、プロビジョニング可能なサーバーにそれを再配備する必要があります。

agentupgrade の構文は次のとおりです。

```
Usage: agentupgrade [--debug] [--role <role>]
      (--all|<servers>|--group <group>|--f_ip <ip>] [--f_runningos <os>]
      [--f_jobcount (0|1)] [--f_model <model>] [--f_name <name>])

      --debug      Show additional status information
      --role       Specify session role for execution

      --all        All healthy, powered on servers
      <servers>    List of space separated servers
      --group      Group name
      --f_*        Filter on property
```

次に示す agentupgrade パラメータは相互に排他です。agentupgrade を実行するときは、これらのパラメータの中からは 1 つだけ指定することができます。

■ **--all**

検出されたすべてのプロビジョニング可能なサーバーの OS 管理エージェントをアップグレードします。

■ **--servers**

servers リストで指定されたプロビジョニング可能なサーバーの OS 管理エージェントをアップグレードします。*servers* は、各プロビジョニング可能なサーバーの管理ポートの IP アドレスです。次に例を示します。

```
# agentupgrade 10.1.5.10 10.1.5.12 10.1.5.25
```

■ **--group**

group name で指定されたグループのプロビジョニング可能なサーバーの OS 管理エージェントだけをアップグレードします。

■ **--f_***

*--f_** に指定されたプロビジョニング可能なサーバーの OS 管理エージェントだけをアップグレードします。*--f_** は、1 つ以上のフィルタ条件で、次のとおりです。

注 – すべてのフィルタはワイルドカードとして機能します。たとえば、`agentupgrade --f_ip 10.1.1.1` と入力した場合、IP アドレス 110.1.1.10、210.1.1.11 などが条件に一致することになります。`agentupgrade --f_model 40` と入力した場合は、サーバーモデル 240、440、V240、および V440 が条件に一致することになります。

- `agentupgrade --f_ip ip address`
ip address で指定された IP アドレスのプロビジョニング可能なサーバーを更新します。
- `--f_runningos`
`agentupgrade --f_runningos running OS`
running OS で指定されたオペレーティングシステムがインストールされているすべてのプロビジョニング可能なサーバーを更新します。
- `--f_jobcount (0|1)`
`agentupgrade --f_jobcount 0running OS` または `agentupgrade --f_jobcount 1running OS`。0 の指定は、プロビジョニング可能なサーバーで実行中のリモートジョブがないことを、1 の指定は、プロビジョニング可能なサーバーで実行中のジョブが 1 つあることを示します。
- `--f_model`
`agentupgrade --f_model model`
model で指定されたマシンタイプのすべてのプロビジョニング可能なサーバーを更新します。
- `--f_name`
`agentupgrade --f_name provisionable server name`
provisionable server name で指定された名前のプロビジョニング可能なサーバーだけを更新します。

次のパラメータは、上記の排他パラメータと一緒に使用できます。

- `--debug`
`agentupgrade` の実行中にステータス情報を追加して表示します。
- `--role`
role で指定されたセキュリティロールを使用する N1 System Manager を使用して `agentupgrade` を実行します。N1 System Manager のセキュリティロールとその使用に関する詳細は、『Sun N1 System Manager 1.2 管理ガイド』の「ロールの管理」を参照してください。

すべての正常な状態のプロビジョニング可能なサーバーの OS 監視エージェントをアップグレードする手順を次に示します。

▼ プロビジョニング可能なサーバー の OS 管理エージェントをアップグレードする

手順 1. 更新するすべてのプロビジョニング可能なサーバーが、オンラインで正常な状態であることを確認します。

a. ブラウザウィンドウを開き、**N1 System Manager** にログインします。

b. プロビジョニング可能なサーバーおよびサーバーグループのステータスをチェックします。

c. 問題が報告されている場合は、次の手順に進む前にそれらを解決します。

『Sun N1 System Manager 1.2 管理ガイド』の第 4 章「サーバーおよびサーバーグループの管理」および『Sun N1 System Manager 1.2 管理ガイド』の第 5 章「サーバーの監視」を参照してください。

2. **N1 System Manager** 管理サーバーに **root** でログインします。

3. **/opt/sun/nlgc/bin/agentupgrade --all** と入力して、プロビジョニング可能なサーバーの監視エージェントをアップグレードします。

エージェントのアップグレードプロセスは順に実行されます。このため、多数のプロビジョニング可能なサーバーがある場合は、長時間を要する場合があります。各プロビジョニング可能なサーバーがアップデートされると、ステータスメッセージが表示され、エージェントの更新に成功したかがわかります。

出力は、**stdout** に送られた **agentupgrade** コマンドによって生成されます。プロビジョニング可能なサーバーの OS 管理エージェントが更新できない場合、失敗の情報が **stdout** に書き込まれ、**agentupgrade** プロセスは続行されます。

プロビジョニング可能なサーバーの OS 管理エージェントの更新は、**N1 System Manager** のブラウザを使用して行うこともできます。プロビジョニング可能なサーバーの更新の手順の詳細は、『Sun N1 System Manager 1.2 管理ガイド』の「基本管理機能と OS 監視機能の追加およびアップグレード」を参照してください。プロビジョニング可能なサーバーの OS 管理エージェントの更新に関する手順の詳細は、『Sun N1 System Manager 1.2 管理ガイド』の「サーバーの OS 監視機能をアップグレードする」を参照してください。

第 3 章

Sun N1 System Manager ソフトウェア のアンインストール

この章では、N1 System Manager ソフトウェアを管理サーバーからアンインストールする手順を示します。

N1 System Manager をアンインストールする前に、管理システムデータベースおよび構成ファイルのバックアップを取ります。『Sun N1 System Manager 1.2 管理ガイド』の「N1 System Manager のデータベースおよび構成ファイルのバックアップと復元」を参照してください。

Sun N1 System Manager ソフトウェアの アンインストール

この節では、N1 System Manager ソフトウェアをアンインストールする手順を示します。

▼ N1 System Manager ソフトウェアをアンインストールする

- 手順
1. N1 System Manager 管理サーバーに **root** でログインします。
 2. N1 System Manager のプロセスをすべて終了します。
端末ウィンドウで「**/etc/init.d/nlsminit stop**」と入力します。「N1 services stopped」というメッセージを確認してから続行します。

3. `/nlgc-setup/installer/install -e` と入力して、N1 System Manager ソフトウェアをアンインストールします。

次のいずれかのメニューが表示されます。管理サーバーにインストールされているオペレーティングシステムによって異なります。

N1SM Installer (SunOS)

- | | |
|---|-------------------|
| 1. Uninstall OS packages. | [Not Uninstalled] |
| 2. Uninstall Expect. | [Not Uninstalled] |
| 3. Uninstall IPMI tool. | [Not Uninstalled] |
| 4. Uninstall JDK 1.5. | [Not Uninstalled] |
| 5. Uninstall service provisioning components. | [Not Uninstalled] |
| 6. Uninstall OS provisioning components. | [Not Uninstalled] |
| 7. Uninstall user interface components. | [Not Uninstalled] |
| 8. Uninstall service container components. | [Not Uninstalled] |
| 9. Uninstall N1 System Manager. | [Not Uninstalled] |

Non-interactive uninstall in progress

Executing current step: Install OS packages...

N1SM Installer (Linux)

- | | |
|---|-------------------|
| 1. Uninstall empty directories. | [Not Uninstalled] |
| 2. Uninstall IPMI tool. | [Not Uninstalled] |
| 3. Uninstall JDK 1.5. | [Not Uninstalled] |
| 4. Uninstall Python. | [Not Uninstalled] |
| 5. Uninstall service provisioning components. | [Not Uninstalled] |
| 6. Uninstall OS provisioning components. | [Not Uninstalled] |
| 7. Uninstall user interface components. | [Not Uninstalled] |
| 8. Uninstall service container components. | [Not Uninstalled] |
| 9. Uninstall N1 System Manager. | [Not Uninstalled] |

Non-interactive uninstall in progress.

アンインストールプロセスによって N1 System Manager ソフトウェアとコンポーネントの削除が開始されます。アンインストールは逆の順番で行われます。アンインストールプロセスが完了すると、「N1SM is uninstalled」というメッセージが表示されます。

4. 管理サーバーを再起動してからほかの作業を行います。

第 4 章

障害追跡

この章では、Sun N1 System Manager のインストール時に表示されるエラーメッセージや発生する可能性のある問題の一覧と、その問題を解決する手順を示します。この章では、次の内容について説明します。

- 37 ページの「一般情報」
- 39 ページの「エラーメッセージ」
- 40 ページの「問題」
- 41 ページの「管理サーバーの設定」
- 42 ページの「プロビジョニング可能なサーバーのファームウェア」

一般情報

この節では、N1 System Manager の運用プロセスに関する情報を示します。

N1 System Manager を使ってシステム管理サーバーを管理できない

N1 System Manager を使って、Sun Management Server、Sun Control Station などのシステム管理ソフトウェアや、N1 System Manager を含むその他のシステム管理アプリケーションがインストールされたサーバーを管理しないでください。

工場出荷時状態のサーバーの検出

工場出荷時状態のプロビジョニング可能なサーバーを検出しようとする、N1 System Manager の検出処理が、プロビジョニング可能なサーバーに自動的に SSH アカウントと IPMI アカウントを設定しようとします。

検出処理では、次のように資格が設定されます。

表 4-1 SPARC アーキテクチャーのプロビジョニング可能なサーバーのデフォルトの資格

タイプ	Telnet ログイン	Telnet パスワード
Netra 240 および 440	admin	admin
Sun Fire V210、V240、V440	admin	admin
Sun Fire T1000 および T2000	admin	admin

表 4-2 x86 アーキテクチャーのプロビジョニング可能なサーバーのデフォルトの資格

タイプ	SSH ログイン	SSH パスワード	IPMI ログイン	IPMI パスワード	SNMP 読み取り コミュニティ文字列
Sun Fire V20z および V40z	admin	admin	-	admin	public
Sun Fire X2100	-	-	Admin	admin	-
Sun Fire X4100 および X4200	root	changeme	root	changeme	public

SSH と IPMI のログインアカウントとパスワードを指定してある場合、プロビジョニング可能なサーバーはユーザーが指定した資格を使って設定されます。資格を 1 つだけ指定した場合、もう一方の資格には、上記のいずれかのデフォルト設定が使用されます。

自動設定を無効にするには、検出を実行する前に次の行を
/etc/opt/sun/nlgc/domain.properties に追加します。

```
com.sun.hss.domain.internal.discovery.initializeDevice=false
```

自動設定の無効化を有効にするには、N1 System Manager を再起動する必要があります。自動設定を無効にしたら、SSH アカウントと IPMI アカウントを設定するまでサーバーは検出されません。詳細は、『Sun N1 System Manager 1.2 サイト計画の手引き』の「プロビジョニング可能なサーバーの設定」を参照してください。

DHCP サービスと N1 Grid Service Provisioning System の衝突

N1 System Manager と ISP プラグインが含まれる N1 Grid Service Provisioning System の両方を使っている場合は、特定のサーバーへの OS の配備に、どちらかの製品を選択する必要があります。OS の配備に使う製品を選択したら、root ユーザーとしてオペレーティングシステムのコマンドを使い、他方の製品の DHCP サービスを手動で停止する必要があります。サービスを停止しなかった場合、OS の配備処理が不安定になったり、ネットワーク関連の問題が発生したりする可能性があります。

エラーメッセージ

この節では、Sun N1 System Manager のインストール時に表示されるエラーメッセージと、発生する可能性のある問題の解決方法を示します。

```
[alert] httpd: Could not determine the server's fully
qualified domain name, using 129.123.111.12 for ServerName
scs-httpd: Fri Nov 19 12:47:34 PST 2004 : Daemon started (pid=1473 1485 1486..
```

原因: システムファイル `/etc/resolv.conf` が正しく設定されていないので、システムでサーバーの完全指定によるドメイン名を判別できません。

対処方法: 41 ページの「`/etc/resolv.conf` ファイルを更新する」に従って `/etc/resolv.conf` ファイルを更新します。

Error waiting for SPS to start.

原因: `/etc/hosts` ファイルのエントリが間違っています。

対処方法: 41 ページの「`/etc/hosts` ファイルを更新する」に従って `/etc/hosts` を更新します。

An exception occurred trying to update *SP-IPaddress*.

Please refer to the log file for more information.

原因: Sun Fire V20z サーバーのファームウェアのバージョン 2.2 以降では、PIC ファームウェアのアップグレードがサポートされていません。PIC ファームウェアのアップグレードは失敗し、ジョブのステップで上記のエラーメッセージが表示されます。

対処方法: Sun Fire V20z サーバーに PIC ファームウェアをロードしないでください。

Connect to *management server url:443* failed (Connection refused)

説明: `https://servername` の形式 (*servername* は管理サーバーの名前) で Sun N1 System Manager サーバーの URL を入力すると、上記のエラーメッセージが表示されます。

原因: システムファイル `/etc/resolv.conf` が正しく設定されていません。

対処方法: 41 ページの「`/etc/resolv.conf` ファイルを更新する」に従って `/etc/resolv.conf` を更新します。

Fatal error: Command failed for target 'Makefile'

例: Writing Makefile for Locale::gettextMakefile out-of-date
with respect

```
to/usr/perl5/5.8.4/lib/i86pc-solaris-64int/Config.pm/usr/perl5/5.8.4/
lib/i86pc-solaris-64int/CORE/config.hCleaning current config
before rebuilding Makefile... make -f Makefile.old clean >
```

```
/dev/null 2>&1 || /bin/sh -c true/usr/bin/perl
Makefile.PLWriting Makefile for Locale::gettext ==> Your
Makefile has been rebuilt. <== ==> Please rerun the make
command. <==false *** Error code 255make: Fatal error: Command
failed for target 'Makefile'
```

原因: システム日付が間違っています。

対処方法: システム日付を設定します。

Starting dhcpd: [Failed]

説明: システム起動時に dhcpd が起動しません。Sun N1 System Manager の設定を行っていない場合は、このメッセージは正常です。

対処方法: [16 ページの「N1 System Manager システムの設定」](#)の説明に従って N1 System Manager システムを設定します。

問題

プロビジョニング可能なサーバーを検出できない。

原因: プロビジョニング可能なサーバーのファームウェアが古すぎる可能性があります。

対処方法: ファームウェアのバージョンを確認し、必要な場合は[42 ページの「プロビジョニング可能なサーバーのファームウェア」](#)の説明に従ってファームウェアをアップデートします。

Sun Fire V20z または Sun Fire V40z のファームウェアのアップデートに失敗する。

原因: 管理ネットワークスイッチでリンク速度の自動ネゴシエーションが有効になっていません。

対処方法: すべての管理ネットワーク接続について、管理ネットワークスイッチでリンク速度の自動ネゴシエーションを有効にします。

管理サーバーの IP アドレスが実際の IP アドレスではなく 127.0.0.1 に解決される。

原因: /etc/hosts に、管理サーバーの IP アドレスとサーバー名の割り当てがありません。

対処方法: [41 ページの「/etc/hosts ファイルを更新する」](#)の説明に従って /etc/hosts ファイルを更新します。

プロビジョニング可能なサーバーの管理プロセッサにログオンできない。

原因: サービスプロセッサのアカウントとパスワードが不明です。

対処方法: ハードウェアのマニュアルに従って、サービスプロセッサのアカウントを工場出荷時の設定にリセットします。

管理サーバーの設定

この節では、管理サーバーの設定ファイルの問題を解決する手順を示します。

▼ /etc/hosts ファイルを更新する

手順 ● **/etc/hosts** を編集し、次の例のようにします。

```
# Do not remove the following line, or various programs
# that require network functionality will fail.
127.0.0.1          localhost
111.222.333.44    machine-name loghost
```

ここで 111.222.333.44 は N1 System Manager サーバーの IP アドレスで、*machine-name* は N1 System Manager の管理サーバーの名前です。

たとえば、マシン名が *n1manager* で、*eth0* に割り当てられている IP アドレスが 129.123.111.12 の場合、*/etc/hosts* ファイルで次のように設定する必要があります。

```
# Do not remove the following line, or various programs
# that require network functionality will fail.
127.0.0.1          localhost.localdomain localhost
129.123.111.12     n1manager loghost
```

/etc/hosts ファイルの更新後はシステムを再起動する必要があります。

▼ /etc/resolv.conf ファイルを更新する

手順 ● **/etc/resolv.conf** を編集し、次のようにします。

```
nameserver server 1 IP address
nameserver name server 2 IP address
nameserver name server 3 IP address
domain your-domain-name
search your-domain-name
```

たとえば、最初の DNS サーバーの IP アドレスが 129.123.111.12、2 番目の DNS サーバーの IP アドレスが 129.123.111.24、3 番目の DNS サーバーの IP アドレスが 129.123.111.36 とします。組織のドメイン名が mydomain.com の場合、`/etc/resolv.conf` ファイルには次のように入力します。

```
nameserver 129.123.111.12
nameserver name 129.123.111.24
nameserver name 129.123.111.36
domain mydomain.com
search mydomain.com
```

▼ プロビジョニング可能なサーバーの自動設定を無効にする

プロビジョニング可能なサーバーの検出時の自動設定を無効にする手順は、次のとおりです。

- 手順 ● `/etc/opt/sun/nlgc/domain.properties` ファイルを編集し、次の行をファイルに追加します。

```
com.sun.hss.domain.internal.discovery.initializeDevice=false
```

自動設定の無効化を有効にするには、N1 System Manager を再起動する必要があります。自動設定を無効にしたら、SSH アカウントと IPMI アカウントを設定するまでサーバーは検出されません。詳細は、『Sun N1 System Manager 1.2 サイト計画の手引き』の「プロビジョニング可能なサーバーの設定」を参照してください。

プロビジョニング可能なサーバーのファームウェア

この節では、プロビジョニング可能なサーバーのサポートされているファームウェアのバージョンの一覧、およびプロビジョニング可能なサーバーのファームウェアを確認、ダウンロード、およびアップデートする手順を示します。

次の表に、サポートされているファームウェアのバージョンをマシンの種類別に示します。

プロビジョニング可能なサーバー		
タイプ	最小	推奨
Netra 240 および 440 ALOM	1.4	1.5.3
Sun Fire T1000 ALOM	6.1.0	6.1.0
Sun Fire T2000 ALOM	6.0.1	6.0.1
Sun Fire V20z および V40z SP	サービスプロセッサ: 2.1.0.5	サービスプロセッサ: 2.3.0.11
Sun Fire V20z BIOS	1.27.4	1.33.5.2
Sun Fire V40z BIOS	1.27.4	2.33.5.2
Sun Fire V210、V240、および V440 ALOM	1.4	1.5.3
Sun Fire X2100 SP	4.0.9	4.11
Sun Fire X2100 BIOS	1.0.0	1.0.3
Sun Fire X4100 および X4200	1.0	1.0

プロビジョニング可能なサーバーのファームウェアバージョンを確認するには、『Sun N1 System Manager 1.2 管理ガイド』の「プロビジョニング可能なサーバーにインストールされているファームウェアアップデートを一覧表示する」の手順に従います。

N1 System Manager でファームウェアのバージョンを確認できない場合は、次のいずれかまたはすべてが原因になっている可能性があります。

- プロビジョニング可能なサーバーの管理プロセッサの IP アドレスが設定されていないので、サーバーを検出できない。
管理プロセッサの IP アドレスが設定されているかどうかを確認し、設定されている場合は N1 System Manager からアクセス可能かどうかを確認します。
管理プロセッサの IP アドレスが正しくない場合は、ハードウェアのマニュアルに従ってプロセッサに IP アドレスを割り当てます。
IP アドレスが正しい場合は、次の項目に進みます。
- プロビジョニング可能なサーバーの管理プロセッサのアカウント資格 (ログインアカウントとパスワード) が N1 System Manager で認識されない。N1 System Manager で使われている資格を確認し、プロビジョニング可能なサーバーの管理プロセッサのアカウントにアクセスしてみます。プロセッサのアカウントについては、[37 ページの「工場出荷時状態のサーバーの検出」](#)を参照してください。
管理プロセッサにアクセスできない場合は、ハードウェアのマニュアルに従ってプロビジョニング可能なサーバーを工場出荷時の設定にリセットし、プロビジョニング可能なサーバーの管理プロセッサに IP アドレスを割り当て直します。プロビジョニング可能なサーバーのリセットが完了したら、サーバーで検出を実行します。『Sun N1 System Manager 1.2 管理ガイド』の「サーバーの検出」の手順に従ってください。

検出に成功したら、ファームウェアバージョンを確認します。『Sun N1 System Manager 1.2 管理ガイド』の「プロビジョニング可能なサーバーにインストールされているファームウェアアップデートを一覧表示する」の手順に従ってください。まだ N1 System Manager でファームウェアのバージョンを確認できない場合は、ハードウェアのマニュアルに従ってファームウェアをサポートされているバージョンにアップデートします。

索引

A

ALOM 電子メール警告の設定, アップグレード
中の設定, 30-31

D

DHCP
サービスの衝突, 38
設定, 17

I

ISO インストールイメージ, ダウンロー
ド, 12-13

N

N1 System Manager
アップグレード, 27-31
アンインストール, 35
インストール, 13-16
設定, 16-23
プロビジョニング可能なサーバー
OS 管理エージェントのアップグレー
ド, 31-34
N1 System Manager ソフトウェア
インストール ISO イメージのダウンロー
ド, 12-13
インストール ISO イメージのマウント, 12

S

Sun Download Manager, ダウンロード, 12

あ

アップグレード
ALOM 電子メール警告の設定, 30-31
N1 System Manager ソフトウェア, 27-31
プロビジョニング可能なサーバー の OS 管理
エージェント, 31-34
アンインストール, N1 System Manager, 35

い

インストール
ISO イメージ, マウント, 12
ISO イメージのダウンロード, 12-13
N1 System Manager ソフトウェア, 13-16
N1 System Manager ソフトウェアのアップ
グレード, 27-31
N1 System Manager のインストール ISO イ
メージのダウンロード, 12-13
前提条件, 11-13
方法, 11
インストール ISO イメージ, マウント, 12

え

エージェント

OS 管理

プロビジョニング可能なサーバーの
アップグレード, 31-34

エラー, 重要度, 19

エラーメッセージ, 39-40

か

ガイドライン, パフォーマンス, 23

管理サーバー

DHCP 設定, 17

N1 System Manager ソフトウェアのアップ
グレード, 27-31

N1 System Manager ソフトウェアのインス
トール, 13-16

N1 System Manager ソフトウェアの設
定, 16-23

パフォーマンス調整, 23-25

こ

構成, アップグレード中の ALOM 電子メール警
告の設定, 30-31

し

資格, 管理プロセッサのデフォルト, 38

障害追跡

could not determine server name, 39

DHCP サービスの衝突, 38

DHCP の起動失敗, 40

/etc/hosts の更新, 41

/etc/resolv.conf の更新, 41-42

IP アドレスが 127.0.0.1 に解決される, 40

SP-IPaddress 更新時の例外, 39

SPS を起動できない, 39

V20z サーバーまたは V40z サーバーを検出
できない, 40

エラーメッセージ, 39-40

管理サーバーへの接続失敗 (接続拒否), 39

ターゲット 'Makefile' に対してコマンド失
敗, 39

障害追跡 (続き)

プロビジョニング可能なサーバー, デフォル
トの資格, 37-38

プロビジョニング可能なサーバーの自動設定
を無効にする, 42

プロビジョニング可能なサーバーのファーム
ウェアの確認, 42

プロビジョニング可能なサーバーを検出でき
ない, 37-38

せ

設定

DHCP, 17

N1 System Manager ソフトウェア, 16-23

プロビジョニング可能なサーバーのファーム
ウェアの確認, 42

た

ダウンロード

Sun Download Manager, 12

インストール ISO イメージ, 12-13

ち

調整, パフォーマンス, 23-25

て

デフォルトの資格

V20z サーバーと V40z サーバー, 38

プロビジョニング可能なサーバー, 37-38

は

パフォーマンス調整, 23-25

パフォーマンスのガイドライン, 23

ふ

ファームウェア, プロビジョニング可能なサーバー, 確認, 42

プロビジョニング可能なサーバー

OS 管理エージェントのアップグレード, 31-34

検出時の自動設定を無効にする, 42

検出できない, 37-38

デフォルトの資格, 37-38, 38

ファームウェアの確認, 42

ろ

ログ, エラーの重要度, 19

